

平成19年度 第117回簿記検定試験 解説 3級

第1問 仕訳問題

1. 帳簿残高を実際有金の金額に修正するため、現金勘定を¥5,000減少させる処理を行う。この時点で現金不足分が¥5,000となり、この原因は、従業員負担の交通費の肩代わり分¥3,300と原因不明分¥1,700となる。従業員負担の交通費の肩代わり分¥3,300については従業員立替金勘定で処理し、原因不明分については雑損勘定で処理する。
2. 為替手形の振り出し(引受済)については、売掛金勘定の減少として処理する。
3. 前期に貸倒れ処理した売掛金の回収額は償却債権取立益勘定で処理する。
4. 所得税の源泉徴収分については所得税預り金勘定で処理する。
5. 事業主の所得税¥210,000と事業主負担の水道光熱費¥20,000は引出金勘定で処理する。

第2問 当座借越(二勘定制)

当座借越について、二勘定制で処理しているので、取引毎に当座預金勘定残高、当座借越勘定残高を確認しながら仕訳を行う。仕訳は下記のとおりである。

1日	当座預金勘定残高¥500,000、当座借越勘定残高¥0			
4日	(借) 現金 100,000	(貸) 当座預金	100,000	
	上記仕訳転記後の当座預金勘定残高¥400,000、当座借越勘定残高¥0			
9日	(借) 仕入 600,000	(貸) 当座預金	300,000	
		(貸) 買掛金	300,000	
	上記仕訳転記後の当座預金勘定残高¥100,000、当座借越勘定残高¥0			
15日	(借) 買掛金 400,000	(貸) 当座預金	100,000	
		(貸) 当座借越	300,000	
	上記仕訳転記後の当座預金勘定残高¥0、当座借越勘定残高¥300,000			
19日	(借) 当座借越 250,000	(貸) 売上	250,000	
	上記仕訳転記後の当座預金勘定残高¥0、当座借越勘定残高¥50,000			
24日	(借) 当座借越 50,000	(貸) 受取手形	500,000	
	(借) 当座預金 450,000			
	上記仕訳転記後の当座預金勘定残高¥450,000、当座借越勘定残高¥0			
26日	(借) 支払手形 200,000	(貸) 当座預金	200,000	
	上記仕訳転記後の当座預金勘定残高¥250,000、当座借越勘定残高¥0			
29日	(借) 広告宣伝費 80,000	(貸) 当座預金	80,000	
	上記仕訳転記後の当座預金勘定残高¥170,000、当座借越勘定残高¥0			

上記仕訳を各勘定に転記し、10月末の当座預金勘定残高は29日の仕訳転記後の残高¥170,000となる。

第3問 勘定記入から残高試算表の作成

資料の勘定記録より仕訳を示すと下記のとおりである。

1. 現金勘定(借方)

(借) 現金 83,000	(貸) 当座預金	83,000
(借) 現金 12,000	(貸) 受取手数料	12,000
(借) 現金 190,000	(貸) 売買目的有価証券	176,000
	(貸) 有価証券売却益	14,000

諸口の内容は売買目的有価証券の売却なので、解答用紙の残高試算表の有価証券売却益勘定¥14,000より売却損益を推定し、仕訳の貸借差額で売買目的有価証券の簿価の減少について仕訳する。

2. 現金勘定(貸方)

(借) 支払家賃 17,000	(貸) 現金	17,000
(借) 給料 120,000	(貸) 現金	120,000

3. 当座預金勘定(借方)			
(借)	当座預金	260,000	(貸) 売上 260,000
(借)	当座預金	436,000	(貸) 受取手形 436,000
(借)	当座預金	156,000	(貸) 売掛金 156,000
4. 当座預金勘定(貸方)			
(借)	仕入	120,000	(貸) 当座預金 120,000
(借)	支払手形	230,000	(貸) 当座預金 230,000
(借)	買掛金	95,000	(貸) 当座預金 95,000
(借)	現金	83,000	(貸) 当座預金 83,000
上記1. と同一取引なので、仕訳を削除			
(借)	借入金	50,000	(貸) 当座預金 51,000
(借)	支払利息	1,000	
諸口の内容は借入金の返済なので、借入金元本の返済と利息の支払に関する仕訳を行う。資料の残高試算表の支払利息勘定 ¥5,000 と解答用紙の残高試算表の支払利息勘定 ¥6,000 より支払利息が ¥1,000 増加しているので、この増加分が当該取引の支払利息と推定される。また、借入金元本は支払額 ¥51,000 から利息 ¥1,000 を差し引いた ¥50,000 と判明する。			
5. 受取手形勘定(借方)			
(借)	受取手形	416,000	(貸) 売上 416,000
(借)	受取手形	192,000	(貸) 売掛金 192,000
6. 受取手形勘定(貸方)			
(借)	当座預金	436,000	(貸) 受取手形 436,000
上記3. と同一取引なので、仕訳を削除			
7. 支払手形勘定(借方)			
(借)	支払手形	230,000	(貸) 当座預金 230,000
上記4. と同一取引なので、仕訳を削除			
8. 支払手形勘定(貸方)			
(借)	仕入	367,000	(貸) 支払手形 367,000
(借)	買掛金	275,000	(貸) 支払手形 275,000
9. 売上勘定(借方)			
(借)	売上	104,000	(貸) 売掛金 104,000
10. 売上勘定(貸方)			
(借)	当座預金	260,000	(貸) 売上 260,000
上記3. と同一取引なので、仕訳を削除			
(借)	受取手形	416,000	(貸) 売上 416,000
上記5. と同一取引なので、仕訳を削除			
(借)	売掛金	434,000	(貸) 売上 434,000
11. 仕入勘定(借方)			
(借)	仕入	420,000	(貸) 当座預金 420,000
上記4. と同一取引なので、仕訳を削除			
(借)	仕入	367,000	(貸) 支払手形 367,000
上記8. と同一取引なので、仕訳を削除			
(借)	仕入	115,000	(貸) 買掛金 115,000
12. 仕入勘定(貸方)			
(借)	買掛金	67,000	(貸) 仕入 67,000
13. 上記以外の9月中の取引			
(借)	貸倒引当金	41,000	(貸) 売掛金 60,000
(借)	貸倒損失	19,000	
(借)	備品	300,000	(貸) 未払金 300,000

資料 と上記の仕訳を集計して、残高試算表を作成する。

第4問 売上原価算定の決算仕訳

～ について、売上原価勘定で売上原価を算定する仕訳を行う。また、～ については費用の勘定（売上原価勘定）を締め切る仕訳を行う。

の仕訳を行うにあたって、～ の仕訳を売上原価勘定に転記すると下記のとおりである。

		売 上 原 価	
繰越商品	780,000	繰越商品	630,000
仕入	9,540,000		

そして、売上原価勘定残高 ¥9,690,000 (= ¥780,000 + ¥9,540,000 - ¥630,000) を算定し、費用の勘定の締切りの仕訳を行う。

第5問 精算表の作成（推定）

金額を推定して精算表を完成させる問題である。決算整理仕訳を推定して整理記入欄の記入を行うとともに、判明した勘定科目について試算表欄、損益計算書欄および貸借対照表欄の記入もあわせて行うと解答作成時間を短縮することができる。

・未記帳事項について仕訳を示すと以下のとおりである。

1. 手形の割引

(借) 当座預金	64,000	(貸) 受取手形	65,000
(借) 手形売却損	1,000		
当座預金	整理記入欄借方に ¥64,000 を記入する。		
	貸借対照表欄借方に ¥857,000 (= ¥793,000 + ¥64,000) を記入する。		
受取手形	整理記入欄貸方に ¥65,000 を記入する。		
	貸借対照表欄借方に ¥226,000 (= ¥291,000 - ¥65,000) を記入する。		
手形売却損	整理記入欄借方に ¥1,000 を記入する。		
	損益計算書欄借方に ¥19,000 (= ¥18,000 + ¥1,000) を記入する。		

2. 配当金領収証の受取

(借) 現金	21,000	(貸) 受取配当金	21,000
現金	整理記入欄借方に ¥21,000 を記入する。		
受取配当金	整理記入欄貸方に ¥21,000 を記入する。		
	損益計算書欄貸方に ¥67,000 (= ¥46,000 + ¥21,000) を記入する。		

3. 備品の売却

(借) 未収金	33,000	(貸) 備品	300,000
(借) 備品減価償却累計額	225,000	(貸) 固定資産売却益	3,000
(借) 減価償却費	45,000		
未収金	整理記入欄借方に ¥33,000 を記入する。		
	貸借対照表欄借方に ¥54,000 (= ¥21,000 + ¥33,000) を記入する。		
備品減価償却累計額	解答用紙に記入済みである。		
減価償却費	整理記入欄借方に ¥45,000 を記入する。		
備品	整理記入欄貸方に ¥300,000 を記入する。		
	貸借対照表欄借方に ¥500,000 (= ¥800,000 - ¥300,000) を記入する。		
固定資産売却益	勘定科目欄 固定資産売却()の()内に「益」と記入し、整理記入欄貸方、損益計算書欄貸方に ¥3,000 を記入する。		

4. 仮払金の処理

(借) 現金	4,000	(貸) 仮払金	80,000
(借) 旅費交通費	76,000		
現金	整理記入欄借方に ¥4,000 を記入する。		
	試算表欄借方に ¥101,000 (= ¥126,000 - ¥21,000 - ¥4,000) を記入する。		
旅費交通費	整理記入欄借方に ¥76,000 を記入する。		
	試算表欄借方に ¥115,000 (= ¥191,000 - ¥76,000) を記入する。		
仮払金	整理記入欄貸方に ¥80,000 を記入する。		

・決算整理仕訳を推定すると以下のとおりである。

- 未払地代、支払地代：支払地代の整理記入欄借方 ¥25,000より、
 (借) 支払地代 25,000 (貸) 未払地代 25,000
 未払地代 勘定科目欄 ()地代の()内に「未払」と記入し、整理記入欄貸方および貸借対照表欄貸方に ¥25,000を記入する。
- 前受家賃、受取家賃：()家賃の整理記入欄貸方 ¥36,000より、
 (借) 受取家賃 36,000 (貸) 前受家賃 36,000
 前受家賃 勘定科目欄 ()家賃の()内に「前受」と記入し、貸借対照表欄貸方に ¥36,000を記入する。
 受取家賃 整理記入欄借方に ¥36,000を記入する。
- 前払保険料、保険料：()保険料の貸借対照表欄借方 ¥24,000より、
 (借) 前払保険料 24,000 (貸) 保険料 24,000
 前払保険料 勘定科目欄 ()保険料の()内に「前払」と記入し、整理記入欄借方に ¥24,000を記入する。
 保険料 整理記入欄貸方に ¥24,000を記入する。
 損益計算書欄借方に ¥84,000 (= ¥108,000 - ¥24,000)を記入する。
- 未収利息、受取利息：未収利息の貸借対照表欄借方 ¥10,000より、
 (借) 未収利息 10,000 (貸) 受取利息 10,000
 未収利息 整理記入欄借方に ¥10,000を記入する。
 受取利息 整理記入欄貸方に ¥10,000を記入する。
 損益計算書欄貸方に ¥25,000 (= ¥15,000 + ¥10,000)を記入する。
- 有価証券評価益、売買目的有価証券：有価証券評価()の整理記入欄貸方 ¥30,000より、
 (借) 売買目的有価証券 30,000 (貸) 有価証券評価益 30,000
 有価証券評価益 勘定科目欄 有価証券評価()の()内に「益」と記入し、損益計算書欄貸方に ¥30,000を記入する。
 売買目的有価証券 整理記入欄借方に ¥30,000を記入する。
 試算表欄借方に ¥780,000 (= ¥810,000 - ¥30,000)を記入する。
- 減価償却費、建物減価償却累計額、備品減価償却累計額：建物減価償却累計額の試算表欄貸方 ¥495,000、貸借対照表欄貸方 ¥540,000、備品減価償却累計額の試算表欄貸方 ¥405,000、整理記入欄借方 ¥225,000、貸借対照表欄貸方 ¥270,000より、
 (借) 減価償却費 135,000 (貸) 建物減価償却累計額 45,000
 (貸) 備品減価償却累計額 90,000
 減価償却費 整理記入欄借方に ¥135,000 (= ¥180,000 - ¥45,000)を記入する。
 建物減価償却累計額 整理記入欄貸方に ¥45,000 (= ¥540,000 - ¥495,000)を記入する。
 備品減価償却累計額 整理記入欄貸方に ¥90,000 (= ¥270,000 + ¥225,000 - ¥405,000)を記入する。
- 消耗品、消耗品費：消耗品の整理記入欄借方 ¥5,000より、
 (借) 消耗品 5,000 (貸) 消耗品費 5,000
 消耗品費 整理記入欄貸方に ¥5,000を記入する。
 消耗品 貸借対照表欄借方に ¥5,000を記入する。
- 仕入、繰越商品：繰越商品の貸借対照表欄借方 ¥51,000、整理記入欄貸方 ¥56,000、仕入の整理記入欄借方 ¥56,000より、
 (借) 仕入 56,000 (貸) 繰越商品 56,000
 (借) 繰越商品 51,000 (貸) 仕入 51,000
 繰越商品 整理記入欄借方に ¥51,000を記入する。
 仕入 整理記入欄貸方に ¥51,000、損益計算書欄借方に ¥5,840,000 (= ¥5,835,000 + ¥56,000 - ¥51,000)を記入する。

仕 入	
試算表欄借方より	当期仕入高 ¥5,835,000
	期首 ¥ 56,000
	期末 ¥ 51,000
	売上原価 ¥5,840,000 損益計算書欄借方に記入

9 . 貸倒引当金繰入、貸倒引当金：受取手形及び売掛金の期末残高に対し3%の貸倒引当金を設定する。

見積額 $(¥291,000 - ¥65,000 + ¥274,000) \times 3\% = ¥15,000$

繰入額 $¥15,000 - ¥8,000 = ¥7,000$

(借) 貸倒引当金繰入 7,000 (貸) 貸倒引当金 7,000

貸倒引当金 整理記入欄貸方に¥7,000を記入する。

貸借対照表欄貸方に¥15,000 (= ¥8,000 + ¥7,000)を記入する。

貸倒引当金繰入 整理記入欄および損益計算書欄借方に¥7,000を記入する。

10 . 試算表欄貸方合計¥12,225,000と売上勘定を除く試算表欄貸方合計¥4,515,000の差額により、売上¥7,710,000を算出し、その金額を「売上」の行の試算表欄貸方と損益計算書欄貸方に記入する。

11 . 損益計算書欄もしくは貸借対照表欄より当期純利益¥685,000を算出し、その金額を損益計算書欄と貸借対照表欄に記入する。そして、各欄の合計額を計算して一致することを確認して記入する。